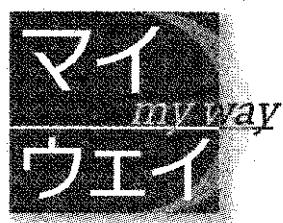


理事長就任

管区長から理事長に肩書きが変わるとともに、仕事の内容と形式も変わった。3階から1階に降りるだけで行けた管区長の事務室から、交通量の多い道路を横断しさらに3階にまで登らねばならない理事長の部屋へと移ったことも、表面的



南山大学学長 ミカエル・カルマノ 33



大学内で神言会総長を案内する

守備と攻撃 両方の勇気を

なことだが、一つの変化で、学までの距離は変わらない。車にして、出張等に活用し続けた。兼任で専任教員をのり、交通手段には大きな変化が起った。学園の方、私の後任者に渡し、1999

々の忠言で、私9年の夏前から自転車に乗るようになった。おかげで、長年使ってきたスクーターの「南山の理事長と学長は運たスクーターの転手付きの公用車ではない」と、交流のサークルはますます広くなっている。私の前任者が手がけてきた学園内の横の連携を、さらに推進することは任期中の大きな目標であった。だから私は、2007年に盛大に行われた南山学園創立75周年記念行事を、各単位の共通の基盤、そして日本でカトリック教育を担う学校・大学の自覚を再確認

交換する名刺の数も急激に増えた。理事長になった翌年、2000年の7月から、名古屋東ロータリークラブに入会して（この時はまだ52歳だった）、「輪に輪つないで」と、交流のサークルはますます広くなっている。私の前任者が手がけてきた学園内の横の連携を、さらに推進することは任期中の大きな目標であった。だから私は、2007年に盛大に行われた南山学園創立75周年記念行事を、各単位の共通の基盤、そして日本でカトリック教育を担う学校・大学の自覚を再確認する機会にしたいと思っていた。この時、世間の注目を集めたのが、メインの行事として愛知県芸術劇場で行われた荘厳な式典と宗教劇の特別講演ではなく、2008年の4月に再開校することとなった南山大学附属小学校であったことは否めない。しかし、考えてみれば、過去を振り返るだけでは意味がある創立記念行事にはならない。学校の伝統を守る建学の精神には、いつも新しいことにも手をかける勇気が必要である。場合によっては素直に自転車に乗り換えるような謙虚さが。